

環境 だより



野良猫のこと



近頃、野良猫や犬にかかる苦情が多くなりつつあります。ペットブームの影響もあるかと思いますが、その都度、個別に愛知県動物保護管理センターに依頼したり、地域で活動をされている団体に相談して対応しているのが現状です。今回は、そのような地域活動団体のご意見を紹介します。

人間もどいぶじも喜ぶじやすい社会へ

私たち、ねこやじゅーnyanzuocompanyのもとには犬や猫に関する相談の電話がたくさん入ります。それらの発端は動物の問題ですが、最終的には住民同士の問題となっている場合が多くを占めています。

「猫が増えて迷惑だ、鳴き声、糞尿被害、餌をやる人がいる…。どうにかして欲しい」これが1番多い相談です。問題を丸投げにする方には何もお手伝いできません。できることの中に、できないことがあり、そこをフォローするのが私たちの仕事です。「不幸な猫を増やさない」今い

る猫を一代限りにするための不妊去勢手術をおこない、地域で見守る「地域猫活動」は地域で暮らす方々の取り組みにより、住民同士のトラブルを解決する手段のひとつです。耳の先がカットされた野良猫を見たことがある方もいるでしょう、あれは手術を済ませた猫の印なのです。

平成26年の冬、私たちは18頭の身寄りのない猫たちの暮らす地域で、獣医師の協力を得て不妊去勢手術に取り組みました。半年かけ、最終的に50頭あまりの猫の手術に携わることになったのです。年末から始まり、

終わるころは夏になっていました。

今でも数か月一度、こういった大規模な現場は問題なく猫たちが暮らしているか、新しい猫が増えていないか見に行きます。先日行ったときは猫の数は数頭になっていました。野良猫の寿命はとても短く、5年生きられたら長いぐらです。

資金や時間に限界のある活動の中で、命の短い猫たちに手術をする必要はないのではないかとという声も聞きますが、1頭から70頭あまり生まれるのが猫の繁殖能力の強さです。命を削って子猫を育て、その子猫たちは半年で親になるのです。

そもそも野良猫はなぜいるのか。それは人間が猫を遺棄したり、飼った猫を家の外に出したりして繁殖させたからです。この問題で文句ばかり言っている私たち人間が元々の原因を作っているのです…。

適正飼育のススメ

- ▽生まれる子に責任がもてないならば不妊去勢手術をしましょう。
- ▽室内で飼育しましょう(庭だけ出しています、絶対帰ってきません…)
- ▽室内で猫を交通事故で亡くしたり迷子にしたら戻りする人がいます。
- ▽予防接種など適切な医療を受けさせましょう。

猫は野生では生きていけない生き物です。現在、猫と暮らしている人は、自分の幸せの為に、地域の環境保全のためにも適正飼育をして下さい。野良猫にご飯をあげている人は、セツトで不妊去勢手術と掃除、トイレを作るようにしましょう。小さな命に優しい社会は一人ひとりのこころがけが大切です。

環境経済課より 野良猫を排除するのではなく、「命あるもの」として地域との共生を認め、自分たちのまちの問題として解決が図られるよう、地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。また、犬は放し飼いにせず、リードに繋がってください。

問合せ先 環境経済課

☎95-1613